

第5回ワーキンググループ議事録

0912

日時 2013年8月15日(木) 19:05~21:05 音楽室

参加者 坂下恵子、都築徳紀、広中省子、堀田まゆみ、靱山勝人、山田美代子、山田亮、
(順不同) 青山恵、池田真子、伊東江利子、岩瀬信廣、浦川正、遠藤健一、大島令子、
近藤均
〔世話人会〕生田創、加藤良行、佐藤雄亮、島田善規、山崎沙知 20名

メンバー2: 司会をつとめます。第5回ワーキンググループ(以下WG)開催にあたり、最初に今日話し合うテーマについて、意見を聞きたい。世話人会議で何度か話し合いの場を持ったが、A案とB案、どちらで行くか意見が別れたので、皆さんに聞きたい。

A案「WGは、市民参画プロジェクト(アイデンカフェ(以下アイデン)制度、ワークショップ(以下WS)の進め方について話し合う場とし、これを進める中で、問題課題を深堀する。今回は、どのようにWSを進めていけばいいのか、アイデンを実行する組織をどのようにつくればいいのかをテーマにする。」これについてメンバー15さんから。5分で説明を。

メンバー15: A案について。3回目に世話人会ができて資料配布を始めたが、4回目になっても進め方が続いている。このままではいけないと言う思いが二つある。一つはWGと運営委員、企画委員との違いや関係性について、また、マスタープラン(以下MP)に記載されている「住民参画交流会議」(以下「住民～」)との兼ね合いやこのプロジェクトにおけるWGの役割など、意見がバラバラ。意見交換だけで終わってしまった。もう一つは、プロジェクトの中のWGの役割は何だかはっきりしない。テーマをどうするのか。意見交換だけの場ではいけないのではないかと。WGメンバー共通の認識を持つために、情報の共有が欠けていたのではないかと。再度確認する必要がある。であれば、もう一度プロジェクトの全体像は何なのか明らかにし、何をやるかはっきりさせて、それぞれの取組みを通じて、それを反映させながら討議するということではないかと。そうするとメンバー20さんの方向とは違ってくるので、問いかけさせていただいた。

メンバー20: B案について。WGが今日で5回目になるが、何について話すのかテーマが未だに決まっていない。世話人会ができて議論してきたが、今日の次第の紙にA案B案あるが、この数行にまとめるのに、世話人会で9時間40分議論した。でも、まとまらないのでここで皆さんのご意見をうかがいたい。

次第のA案と今日メンバー15さんから配られた資料のニュアンスが若干違って困ったが、A案とB案の違いは大きく以下の4点ではないかと。

- ① 何について話すのか、時間軸が違う。A案はこれからやるプロジェクト、未来に向けた取り組みの話。B案はこれまで実行してきた現状についての話。資料3(P.5)、15年やってきて現状がある、これについて話しあっていただきたい。
- ② 何のために話すのか。A案は実行・実践するための話し合いが目的。B案は、話

し合って考える事自体が目的。A 案はここにいる皆さんが実行するために、一つのことを決めてそして実行することが中心。B 案は、何が重要な問題かを切り取って、そのことについて話し合うことが中心。今回配布の資料 2 (P. 4) で示したが、WG1~3 回目で出された意見を 4 回目で振り返り 5 回目から深掘りして何が重要かを考えたい。話し合うテーマを 6 回目で設定してもらって、7 回目以降具体的な問題についてそれぞれ深く話し合っていたきたい。資料 3 (P. 5)、話し合うこと自体が目的と言う意味だが、この話し合いのサイクルで何かを決めるとか実行するとか一言も書いていない、合意形成という言葉も使っていない、できれば合意したいという慎重さでやっている。話し合う事が目的と言ったが、それは実行する必要がないと言う意味ではなくて、この中から実行グループが生まれてほしい、しかし皆さんはすでに活躍されている方で、私が皆さんをひきつれて何か新たに実行するという意味ではない。

- ③ 誰が、どのように、テーマ、問題設定を決めるのか。A 案は実践の中心になる人が、実践の中であるいは実践の後で問題設定を決める。B 案は話し合いの中から問題設定していく、皆さん経験豊富な方だから、皆さんが各活動の経験や資料をもとに話し合って問題設定していく。
- ④ 報告書の役割。A 案は文化マスタープランの策定（改定）のための提言書。B 案は話し合った事をまとめたものが報告書。直接マスタープランの改定に結び付くものではなく、そもそもそのようなスケジュールはないし、考えていない。

メンバー2：みなさんいかがでしょう。

メンバー32：2 つの案の違いがよくわからない。未来について考える時には過去のことも踏まえて考えるし、これまでの現状を考える時は未来の事も踏まえて考えるのでは。実際に行動することをどの程度重視するかという違いなのか。

メンバー15：WG で今まで何を話し合ってきたのかが重要、資料がどうと言う前に。もう一つ、プロジェクトで動いていると言う意味がどうなのか、アイデン、モニターは何のためなのか。モニターは実践を通じての現状、事業の内容を評価する場であり、WS は将来へ提言する場。今まで言い古されてきたことをどれだけこの中で出しても、限界がある。プロジェクトからの生の声から反映されないといけない。プロジェクトからの声でないと、気づいたり、発見がないのではないかな。元々そういうことではなかったのか。

メンバー2：今の話は、今までの議論が今の資料に反映されていないのではないかな、次に生かされている実感がないと感じているということですか？

メンバー15：そうです。個々には、アイデンには実行委員会が必要ではないか、モニター制度、施設見学会についても作業部会が必要ではないか、そういうことさえも決めてない。アイデンの中身をここで決めるわけではないが、意見が反映できるように。

モニターもただ資料はあるが活用できるデータではない。

メンバー21：両論併記で良いのでは。文化論も色々出ている。整理してまとめて話し合う中で、アイデンのように実行しながら並行すれば良いのではないかな。

その準備段階として、みんなが言い尽くしてから始める……。いろんな問題提起が出たことに対し、それを解決するというより、出た問題を皆で認識するこ

とが大事。

メンバー2：A 案 B 案同じである、時間がかかるけれど、その時間自体価値があると言う事です。他には？

メンバー34：そもそもこれは何だったか。初心を忘れかけていないか。B 案だとこの WG メンバーで深く深く掘り下げていくと、わりとマニアックな考えになってしまわないか。既に何か活動をしていて文化の家に深く関わっている人が多い。市民、一般の感覚と離れた議論にならないか。実際に以前 WS「しゃべり場」をやって一般の参加者の意見を聞いた時に、自分とは違うもの、割とイベント的なものを文化の家に求めていると知った。知られていないことを気付くことも必要。そういう事がこの場には必要。モニターの感想が WG に反映されるしくみも見えていない。プロジェクトの3本柱だったのではないのか。このままで良いのかと思う。ここにいるメンバーだけじゃなく、外の意見を定期的に聞く機会を作った方が良い。考え方が偏ってしまうのが心配。

メンバー2：プロジェクト全体がどういうふうに戻っているか、反映されていなくて実感できないということか。

メンバー34：B 案だと、ある一定の時期に報告をまとめる事になっているが、できればそうしたいが、今年度中にまとまらなくても良いと思う。すでに上がっている問題はあるが、もっとよく知ってから何が重要かを考えたい。このプロジェクトがどのくらい続くものなのかはわからないが、まとまらなければそれもしようがないかと思う。

メンバー2：他の方はどうですか。メンバー3 さんどうぞ。

メンバー3：目的が分からなかった。今まで話し合いに目標などが定まっていなかったが、論点をまとめてくれるのは良いと思う。

メンバー20：メンバー15 さんの2つの資料はニュアンスが違ってきているが、これも話し合うと言う事の成果か。

私の提案は、問題を切り取って、話し合うテーマを決めたい。でないと、今少し話ただけでも話題が飛ぶ。テーマを設定するためにはどうすれば良いのかで、A 案と B 案は違う。テーマ設定方法を B 案は今までわかっていること、話した中から設定するか、A 案はこれから活動してから決めていこうと言う事。

メンバー12：運営委員・企画委員と WG は違うと思う。市の審議会であり、広義の事業のあり方を話すのが企画委員会で、運営の在り方全般を話すのが運営委員会として既にある。優先予約や大規模改修について、WG でのやり取りを、運営委員会で役立てられればと言う思いもある。ただ WG が実践の場となると、そこまで参加する事は難しい。大まかな意味では B 案で良いのではないか。話し合って報告書が出れば、行政の方でも参考にするとと思う。運営委員会の資料には、当初は MP に定める「住民～」の位置づけでプロジェクトを始めたが、参加者はそのような認識ではなかったと、目指した方向と違う流れになった事を説明すれば良いのではないか。税金をどう配分するかと言う権限は、私たちにはないので、意見を反映していくというぐらいでよい。

メンバー2：時間がかかるという事については？メンバー12 さんは。

メンバー12：アイデンの花火 de ナイトや MP 勉強会など興味のあるものは多い。資料の量

は確かに多いが、それも世話人の個性。各人人生で培ってきた考えから言いたい事を盛り込みたいだろう。媒体としては資料になる。

メンバー2：資料を活用していこうという意見でした。他には。

メンバー7：メンバー17さんのアンケートと、その結果資料配布された（資料8-2（P.18～））

「長久手町住民会議」について。私は田園バレーの部門で同会議に参加していた。討議を経て基本計画ができたが、基本計画には会議での生の声が反映されていないと感じた。行政にはよくある手法だが。

メンバー27さんのアンケートでも、従来の行政の市民参加ではないしくみの構築が必要と言う意見が出ていた。住民の声を聞いて反映していく、運営の主体を市民にとまでは考えていないが、市民を信用してやっていくには、職員は覚悟を決めて進めていかないと意味が無いものになる。A案とB案については、どちらにするかと言うより時と場合によってより良い方法を選べば良い。

メンバー17：メンバー7さんの意見は、今まで不満だった事をズバリと代弁してくれた。話し合いが反映されずにお役所仕事で計画が作られた。新参者なのであまり意見を言わないつもりでいたが、あるべき姿が見えていない。仕事の基本として、まずあるべき姿があって、課題につながっていくのだが。A案でもB案でも、あるべき姿がないと話しのしようがない。文化の家を通して文化をどのようにしていきたいのか。A案は実践的な話で、B案はどちらかというと大きな方向性の話、B案でやってみたい。個人的にはJAZZ文化についてやってみたい。

メンバー2：あるべき姿を先に議論する事が重要と言う事か。

メンバー17：現状で課題が無いと言うメンバー7さんの意見は正しい。しかし課題がなくなったら、次元をあげればおのずと課題は見えてくる。

メンバー27：この場がどういう所をめざすか、運営委員・企画委員、「住民～」の認識はまちまちだが、フラットな市民の意見を聞く場が必要と言う事なんだろう。言いっぱなしではなく実践もしていくことも必要。この会が成熟していくといいなと思う。このプロジェクトは、実行はアイデンがやりたい人が進めて、WGはもっと大きな基本的な方針に関わるようなことをやっていけばよい。必要なことはぱつと決めなきゃいけない。A案B案どっちと言うよりも、必要に応じてやれば良いと思う。

企画委員会でいつも話題になるのが、あれだけの数の自主事業をこの職員の人数でクオリティを保って実施するのは誇れる事だが、そこにいかに市民を巻き込んでいくか、職員が抱え込んで仕事とせずに、手放していく仕組みを作ろう。参画事業をもっと市民に委託したらどうか、フレキシブルに、お金も出して、チケットも観客動員も、市民を信じて任せていけばよい。そんなことを考えようよと思うので、それが話せればよい。どちらかと言えばB案、必要に応じてA案を含めて。

メンバー2：共通しているのは、A案とかB案というよりも、共通点を見出す事が大切ということですね。休憩にします。

— 休憩 —

メンバー2：休憩中に世話人でこの後の進め方を話し合った。新しい提案、資料2（P.4）の今後の進め方のスケジュールを、もう少し時間を取った方が良いのか。また、意

見の反映のさせ方の提案もある。

メンバー20：WGでは重要な課題をテーマにしてそれについて話を進める点では、世話人で意見が一致。問題は、それをどうやって切り取っていくのかの方法についての考えが少し違う。資料2は、9月の第6回でテーマを決めたいとの提案だが、今この状況で無理。10月の第7回WGで重要なテーマが決まれば、11月以降に重要とされたテーマについて順番に話し合うというスケジュールを提案したい。「テーマ」とは、例えば「〇〇について△△の問題がある。この問題を①×××または②×××と言う方向で解決するべきだ。そのためにはどのような選択肢があるか？」と言う形で、問題設定するというイメージ。この下線部分のキーワードをみなさんと考えたい。このキーワードを皆さんのアンケートから選び出していきたい。その方法をどうするか提案だが、P.43のアンケートは今日はやらないが、どんな問題が重要かこのアンケートをもとに、キーワードを選んでいきたい。ただこのアンケートの項目は適当な例示なので、第7回WGで言葉を整理しなおしてアンケートを取りたい。

メンバー21：このアンケートの書き方は卑近な例。何を話すのかと言う全体図をつかまないと。来る前にアンケートをやってみたが、訳がわからなくなった。設問自体の意味がよくわからないし、問うには時期尚早。メンバー17さんの意見にもあったように、市民の声が反映しないなどの大きな問題について、知ってから到達すべき。また、WGは時間を決めて、21時なら21時に終わるように提案したい。

メンバー32：このWGで提言した結果が、誰かを優先して誰かを優先しない事につながらないか。そこまでをWGで決められるのか。政治的判断にもなるのでは。

メンバー20：まさにそれが課題の切り取り方、問題設定ということ。WGでそのような課題の切り取り方をやろうと提案している。誰かを優先するということは、誰かが優先されない、それが問題だというふうに切り取るとして、ではどういう方向で解決するか、優先のためのどのような選択肢があるのか、適切な一つの選択肢はないのではないかなとなるかもしれない。しかし、解決方法がそれしかないかもしれないし、別の問題の切り取り方があるかもしれない。話し合ったらもっと良い選択肢が出てくるかもしれない。それをWGでやりましょう。

メンバー32：お釈迦様・・・。

メンバー12：A案とB案の話はどうなったのか。

メンバー15：時間がないと言われているが、A案とB案では問題と課題をまだ限定すべきでないという意見の違いがあり、アイデンやWSなど既にやっているところから出る意見とか提案を吸い上げていくべき。5回目でやろうと言うわけではなく、7回目までに集約・整理し、問題課題をそこから深堀していく。ずらすと言うことだが、きちっと反映される仕組みがあいまい、この場で時間を取って話し合いたい。意見が計画に反映されなかった二の舞になるのではないかな。

メンバー2：今の発言をまとめると、B案の中にA案の要素を入れるが、実践してからの反映には時間がかかるので、今ある意見に、モニターやアイデンの情報をWGの材料に増やしていく。問題の切り取り作業を7回目のWGにしてはどうかと。

メンバー21：メンバー17さんやメンバー27さんの意見にもあったが、文化の家が長久手市民に対してどうあるべきかが先ではないか。7回で切り取りをやると言っても、

今の段階ではこの提案の流れに賛成とは言えない。卑近すぎていて、私には判断できない。

メンバー15：私の資料（当日配布分）を見てほしい。基準となる考え方はMPに示されており、文化総合計画にははっきりと明記されている。基準となる将来像は明記されているので、将来のありかたを、WSやアイデンをプラスして加味する・・・

メンバー21：次回MPのレクチャーを受けるのだから、今はMPの話は良いのではないか。

メンバー20：アンケート項目を作る時も迷った。当初、キーワードを〇〇とか××に入る言葉を広く尋ねようとしたが、皆さんが書きづらいのではないかと思います、あえて「卑近」な例を書いた。キーワードをみなさんで自由に書いてもらうようにしましょう。第6回の後で少し残って提出してもらい、整理して、第7回で切り取りを提案する。いかがか。

メンバー21：今回WGでメンバーからいろんな意見が出て、すぐに世話人の考え方に戻されてしまう。どれだけわかってきているのか。聞いてくれて反映されるのか。

メンバー34：同感です。アンケートは自由記載であるべきで、その中からピックアップすべき。アンケートを見て疑問に思った。特定の意見に集約される。キーワードの材料として、私たちの意見以外にもWSやモニターの意見も取り入れられるべきだが時間がないからそうしないのか。現時点で考える材料になるのは、WS夢カードや、次回のMP説明で新たに感じたこと、モニターからの意見、そして自分の意見。これらの4つから書く。でも、多数派意見が必ずしも重要とは限らない。思いもよらない意見が実は重要な案件と言うこともあるだろう。新しく他の人の意見を知る機会もあると良い。

メンバー2：あまり回数とかにしばられるのではなく、何カ月先かは分からないが、たくさんの情報をそろえ実感した上で切り取りを進めるという意見ですか。

メンバー34：いや、MP意外の材料は既に揃っているはず。モニターの資料は現時点で良い。次回のWGまでに、モニターはまとめてもらいたい。

メンバー15：WSもモニターもやっている。その中から重要な課題をとという作業がある。世話人だけではまとめるのに限界がある。WSからの意見まとめグループや、モニター集約グループなどに分かれて作業をする部会を作りたい。

メンバー2：今日もたくさんの意見が出たので、これを反映させる仕組みを作っていきたい。以上で良いか。

メンバー20：作業部会を作るという提案はどうするか。

メンバー12：作業部会をつくると言うが、世話人会はWGの意見をまとめて次回のWGの進行の準備をする会ではないのか。世話人も意見が色々あると思うが、世話人の意見発表を聞く場ではないのでは。世話人のための会議のようだ。

メンバー15：皆さんの意見を整理してやっていくと理解している。WGの進め方の問題だから、脱線してはいない。今まで出ているWGとアイデンとかの関係性とかがはっきりしていないことを解決しない限りは前に進めないのです。そういう提案をしている。

メンバー2：基本的には、世話人会がまとめるという形で行く。部会を作るとは、今はしない。

メンバー21：一般的にファシリテーターは自分の意見を言わずに進行役をするが、世話人会

は意見が強すぎないか。

作業部会の話は、世話人会の活動が負担になっているから、みんなもっと手伝ってほしいと言う理解をした。

メンバー20: 次回のMP勉強会はオープンな会でどうか。清水先生から貴重な話があるので、限られたメンバーだけだともったいない。オープン実施で、自由に参加できるようにしたい。終わった後WGに切り替えて、今日の続きをする。

メンバー21: 一般参加可とすると、なぜMPがあるのか等からの説明になる。時間が足りないのではないか。対象はしぼっても。

メンバー20: 全くふらっと来る人はあまりいないだろうと想定している。MPの存在は知っているが、一度聞きたかったという人。

メンバー34: オープンでやってみて、来る人が少なければMPが広く知られていない事がわかって、それはそれで問題だとわかって良い。聞いてもらいたい人もいる。

メンバー3: チラシを作るんですか？

メンバー2: はい。

メンバー27: オープンなら議員さんなど「聞いてもらいたい人」に声をかけられる。

メンバー7: 門さえ閉ざさなければ良い、程度で良いのでは。声が届く範囲で声をかける。

メンバー12: チラシがあれば配れる。文化協会にも声をかけられる。私たちはどんな手伝いができるか？

メンバー20: メールでお手伝いのお願い状を送るので、お願いします。

メンバー31: 会場は未定だが、ホールを予定。

メンバー2: 来られる人は9月19日18時くらいから、当日準備や受付手伝いなどを。

メンバー20: 決まってないが、内容は60分勉強会、30分質疑応答、10分会場切り替え、30分WGでどうか。

メンバー2: 今日はここまで。アンケートはP.43の①とP.44の③④の項目について数日以内に提出をお願いします。以上です。お疲れさまでした。